

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2772401515		
法人名	医療法人りんどう会		
事業所名	グループホーム青翠園		
所在地	枚方市招提中町3-3-23 (1ユニット)		
自己評価作成日	平成26年3月5日	評価結果市町村受理日	平成26年5月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 MIRO谷町 4階		
訪問調査日	平成26年3月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1 安心で自立した生活 2 ゆっくり寄り添う介護 3 地域に開かれたホーム この3つを介護の基本理念として取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

向山病院を基幹とした医療法人を母体とする運営は本人や家族に大きな安心感を与えている。居宅介護、通所リハビリ、訪問看護の事業運営と共に、地域の医療と高齢者福祉に貢献している。自立した生活、寄り添う介護、地域密着方針を理念に表現し、関係市町村との連携もしっかり行われている。利用者のADLが進行し、以前のように職員と一緒に活動するというようには行かず、より職員サイドの支援力が必要にはなっているが、利用者の表情は落ち着いており、自分のペースで暮らしている様子が伺える。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「安心で自立した生活」「ゆっくり寄り添う介護」「地域に開かれたホーム」を理念に掲げて会議やミーティングの場や日々の業務においても理念にそったサービスが行えているかを確認し合っています	左記のような自立した、ゆっくり寄り添う、地域密着を目指す理念を掲げて、日常の業務を通じ全職員に徹底して、理念に沿ったサービスの実現に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者は地域行事の際には声をかけていただいています。ボランティアの方と一緒に歌や踊りを楽しむ事もあります	利用者のADLの低下や、職員の異動等で近隣との付き合う時間が以前より少なくなってきたが、これからは交流を復活させる意向である。	「地域に開かれたホーム」を理念にも掲げているので、今一度、近隣との触れ合いが少しずつでも前進するよう、職員間で話し合うことが期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度は地域に向けての積極的な活動はできませんでした		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議も平日の日中に開催のため、出席できるご家族が決まっており、意見の数も少なかった	会議は地域包括支援センター、民生委員及び家族が参加して開催されている。事業所の運営状況の報告、ヒヤリハットの発生状況等利用者の暮らしぶりについて報告し、参加者との意見交換が行われている。	運営推進会議は地域密着型サービス事業所としては、概ね2ヶ月に1度の開催が望ましい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者とは意見交換や相談する機会を持ち、サービスの向上に取り組んでいます	行政の担当窓口とのコミュニケーションについて、日頃から密接な報告、相談が行われている。行政主催の行事や研修に積極的に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないことを職員が理解し、定期的に研修も行っています。ただ当ホームの前は交通量の多い道路のため、市の指導により玄関の内側からは電子ロックを採用しています	身体拘束をしないケアについては、法人全体で組織的に取り組む体制にある。行政の指導により一部に施錠等もあるが、職員は見守りを徹底して、拘束感を出さないように努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	正しい理解のために、内部研修を定期的開催しています。日々の何気ない言葉使いに至るまで、注意を払うように心がけています		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在入居されている利用者の中にも成年後見制度を利用されておられる方がおられる。制度について学ぶ機会も設けています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な時間をかけて不安なくご契約頂けるように対応しています。解約の際も同じです		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議でご意見を伺ったり、介護相談員に月1回来ていただき、入居さと接する機会を持って頂き意見を伺うことで、運営に反映させています	家族の来訪時には、利用者の健康状態や暮らしぶりを詳しく報告している。職員は家族が意向や要望を言いやすいように雰囲気づくりに努めている。	以前発行されていたホーム便り「青翠園だより」の再発行等、家族とのつながりについて職員で話し合って進めて欲しい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者や部長、人事担当者が個別で職員と面談する機会を年に2回設けている。またそれ以外で管理者とは日々話す機会がある	日常の引継時や定例の職員ミーティングを利用して、職員からの提案や意見を聞き、法人責任者、管理者、職員間の意思の疎通に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当を用意しており、資格を取るための勤務への配慮もしている。労働形態についてもなるべく希望が通るような配慮をしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は研修計画に基づいて定期的に行っています。外部研修は必要に応じて、研修申請を行い機会の確保をしています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームで作る連絡会があり、積極的に交流をしている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントをしっかりと行い、ご本人との信頼関係も構築できるように努めています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思いを尊重し、出来る限り要望に応えることができるように努力しています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	適切なサービスをご利用いただけるように、他事業所を含め各種サービス事業所との連携をとっています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、ご本人の思いを尊重できるように心がけ、出来ないところを支援するという視点を常に忘れないようにしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	連携を密に行い、相談しやすい関係づくりに努めています。ご本人を支えていくための親近感のある関係づくりを目指しています。また必要に応じてご家族に協力をお願いすることもあります		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	それまで生活してきた中での関係が出来る限り継続できるような支援をしています。また、馴染みの人へも継続してくださいるように働きかけています	利用者の介護度アップ等で以前ほど行きつけの美容院へ行くことが出来にくくなっているが、訪問理容に切り替える等、利用者の社会との関係性を維持するようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症が進み他者から疎外されたり、孤立することのないように、職員が間に入り声かけをしたり、関係づくりを支えたりしています		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要があれば、相談に乗ることもあります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人との関係の中で、思いや意向の把握して、思いに沿った支援ができるように努めています	アセスメントツールを活用して、本人の生活歴の情報収集を行い、趣味や嗜好、好きなこと、嫌なことを把握して、本にの希望に沿った暮らし方への支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やかかわりのあった方から生活環境の把握に努めています。また担当のケアマネジャーから情報提供書をもって生活歴を知る手立てにしています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズムやこだわりを尊重して、望む生活を送る上での必要な支援等を見極めていきます		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアに携わる様々な職員より意見を集め、ご家族の意見も尊重してケース検討を行い、その結果やモニタリングを通して介護計画の見直しにつなげています	家族の希望及び本人の意向を聞き、かかりつけ医や以前のケアマネジャーの意見を参考にしながら、事業所としてのサービス支援計画を作成して家族の同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録にはキーワードを設定して、記入者がどこに注目して何を気づいたのかを職員間で共有できる形をとっています。介護計画の見直しにも活用しています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われず、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて出来る限り最大限のサービス提供をしていきたいが、なかなか実現できていない		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	認知症が進んでも地域とのつながりを継続していけるよう、今後も力を注ぎたい		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な受診は施設への訪問診療で対応するか、ご家族が担う方もおられます。経営母体の病院からの医師であるため	利用者の以前からのかかりつけ医による受診を優先し、担当医と密接な連携を取るとともに、向山病院の医師による訪問往診により万全の医療支援体制を敷いている	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回は看護師の訪問がありそこで健康チェックが行われています。また、個々の利用者の情報を伝える機会にもなっています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	経営母体が協力病院であるため、相談や情報交換はスムーズに行えています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時の説明の中でも重度化や終末期に向けた施設の方針をお伝えするとともに、ご本人を含めたご家族の方針もお聞きするようにしています	入所の段階で、事業所としての方針を説明している。現在はターミナルケアは行っていないが、家族の意向を尊重して、隣接する病院と連携しながら、事業所での生活が出来るだけ継続できるよう支援していく方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルをどの職員も確認しており、時々職員間で対応について確認しています		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回法人本部が開催する消防署の指導にも参加し、ホームにおいても年2回の避難訓練を行っています	法人全体としての防災組織及び防災計画により、消防署の協力指導を受けながら避難訓練が行われている。職員の防災意識も高いものがある。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとりひとりのプライバシーの尊重と、人として当然気を付けるべき対応は、研修などを通じて確認し合い、日常的に気をつけています	一人ひとりの個性の尊重、人生経験に配慮したプライドやプライバシーの尊重を、職員間でお互いに意識し合って対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は意識して日々の生活の中で、入居者が選択できる場面をつくったり、思いをくみ取る機会を持ったりしています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活リズムに配慮した個々人のペースを尊重する支援を心がけるようにしています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	認知症が進行しても化粧水や乳液などが安心して使えるように支援しています。洋服も自分で選んでもらうような工夫をしています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手作りおやつや、食べ物(おはぎやお好み焼き、たこ焼きなど)を皆で楽しみながら出来ることを協力し合って一緒に作る機会を設けています	現在は隣接する系列病院の厨房から取寄せているが、以前のように自前で食材を調達して、職員による家庭的な食事提供の復活を予定している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者全員の一日の食事摂取量と水分摂取量を把握し記録しています。管理栄養士が立てた献立により、バランスのとれた食事になっています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアはどの方も欠かさずに行っています。訪問歯科診療で治療や口腔ケアを行っている方もいます		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表などを活かしてそれぞれの状態に合わせた最善の支援を行っています	自立したトイレでの排泄習慣が継続できるよう、事業所での排泄状況を記録して、事前のトイレ誘導を心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師や看護師とも連携しながら、定期的に排便がみられるようにしています。便秘気味のかたへは特に水分摂取をすすめたり、対応を工夫しています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2～3回の入浴をしておられます。希望があれば毎日の入浴も対応しています。季節によっては菖蒲湯やゆず風呂も楽しんで頂いています	本人の希望を優先した入浴が行われている。体調により清拭等に切り替えて清潔保持にも努めている。ゆっくり落ち着いて入浴してもらえよう、季節に合ったお風呂の雰囲気づくりにも工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の体調に応じて日中にも横になっていただくこともあります。環境面の整備や健康面からの取り組みなどを行っています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬の効用について十分な理解に努めており、服薬支援を行うとともに体調の変化を見落とさず、必要時には医師や看護師につなげるようにしています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者は一日の生活の中で家事や行事の機会に、得意な分野で活躍し張り合いのある生活を送っています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	少人数の外出を実施しており、ショッピングモールや公園、喫茶店、レストランなどへ外出しています。また定期的にご家族がお墓参りにお連れしている方もいます	ADLの低下で以前ほどみんなで外出することが出来にくくなって来ているが、家族の協力を得ながら、個別に樟葉ショッピングモールへの買い物、公園への散歩等を行って、外の空気に触れる機会を作っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が可能な方には、外出時にご自分で支払っていただく配慮もしています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族あてに年賀状を作って出したり、電話をかけるお手伝いを職員がすることもあります		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関口には花壇があり、四季折々の花を咲かせています。窓が大きく、一面に畑が開けており、明るく開放的なリビングになっています。季節ごとの壁面制作を行って飾ったり、空調にも配慮してゆったりとした空間づくりをしています	駐車スペースは車で訪問する家族には嬉しい。玄関から廊下、リビングと余裕のあるスペースに開放感がある。トイレや洗面等の表示も見やすく、作品や花などで落ち着いた雰囲気が出ている。リビングからの遠くまで見える景色は四季を感じることが出来る。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはダイニングテーブルの他に1人でもゆったりくつろげるようにソファを配置しています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれに馴染みのある品々を持ち込んで、居心地のよい空間づくりをされています	家族の協力を得ながら、利用者の気分が落ち着き、安心して過ごせるように、家具や仏壇等なじみの品物で囲まれた部屋づくりとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	分かりやすい表示を工夫したり、カウンターの角などにはクッションを配備しています		